

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「誠実・努力・協調」を校訓として掲げ、生徒も教職員も健康で生き生きと学び続ける自分にとっての「最高」の学校。与えられた生命の可能性を伸張し、能力を最大限に発揮する知性と感性を育み、国際社会の中で適切な判断、意思決定、社会参画ができ、人とつながり、心豊かに次代を生きる力をはぐくむ教育を実践する。

1. 学び続ける意欲と態度を養い、確かな学力を身につけ、高い志を持って将来を見据えた進路を切り拓き、自らの人生を創造する力をはぐくむ。
2. あらゆる教育活動を通して人権感覚を高め、「誠実に生きる力、努力し続ける力、協調する力」を身につけた豊かでたくましい人間性をはぐくむ。
3. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力を身に付け、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。

2 中期的目標

1. 学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成

(1) 授業力向上の取組み

- ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の研究・開発・実践を組織的に進める。
- イ 包括的な教育ビジョンに位置づけられた教科指導の学習達成目標及び評価指標を共有し、計画・実践(指導)・評価・改善(PDCA)を繰り返し、不断の授業改善に取り組む。
- ウ 1人1台端末を利用した学習環境を整備し、これまでの教育実践にICTを取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を効果的に組み合わせた学びを開発・実践する。
- エ 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・公開授業・校内外の研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組みを進める。

(2) 学習到達度の把握と学力伸張の取組み

- ア 1年次から学力生活実態調査、模擬試験等を利用して学習到達度を把握し、教科・学年・分掌が協働して基礎学力定着と応用的学力伸張に取り組む。
- イ 授業において、「復習・予習→授業→復習・予習」のサイクルを日々行う意識を根付かせ、学び続ける力をつける。

(3) 自学自習の習慣を確立する取組み

- ア 生徒が主体的に個別の学習到達目標を設定し、1年次から自学自習が学力伸張に繋がる実感が持てるように持続可能な学習支援を効果的に行う。
- イ 小テスト・朝学・補習・講習・週末課題など、これまでの教育実践がより効果的な学習になるようにICTを取り入れ、学習動画配信やオンライン学習の開発・実践に取り組む。
- ウ 学校経営推進費整備事業(R3)の「花園高校図書学習情報センター」を効果的に運用して以下のミッションを達成し、生徒のあらゆる学びを支援するシステムを構築する。
 - ①「情報発信スタジオ」を整備し、教員によるオンライン教材の開発に資するとともに、国内外複数地域との同時接続による交流、本校舎普通教室へのライブ配信などの機能を授業等で積極的に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力及び主体的な態度を養う。同時に撮影した動画をアーカイブ化し学習教材として活用する。
 - ②「校内教育資料横断検索システム」を構築し、図書館や各教科準備室保管の書籍、探究発表や学校行事の映像や文書、各教科等の学習動画をアーカイブ化し、本校での日々の教育活動の全容を横断的に関連付けて、検索・閲覧できる素材を収集する。また、各資料には資料管理者や教員が付ける検索タグの他に、生徒が記述可能なタグ領域を用意し、資料の有機的な結合を促進する。
 - ③「生徒が読みたい本」「生徒に読ませたい本」を整備し、読書活動を啓発し、読書によって教養を身につける経験をさせ、自主的な読書活動を支援する。

※外部機関の客観的学力診断テストにおける学力(2年次2回め)B2以上 40%(R2:24.8%、R3:20.8%)、B3以上 80%(R2:54.1%、R3:61.0%)

「生徒向け学校教育自己診断(以下生徒自己診断)」において、令和6年度までに「授業などで自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」80%以上(R2:75%、R3:78%)、「教え方に工夫をしている先生が多く、授業は分かりやすい」78%以上(R2:75%、R3:77%)、「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用」92%以上(R2:89%、R3:91%)、「授業・補習を通じて、進路に必要な学力を得ることができる」90%以上(R1:88%、R2:86%、R3:88%)、「態度よく集中して授業を受ける」86%以上 R1:83%、(R2:83%、R3:84%)、「宿題・予習・復習など、家庭学習の習慣がついている」62%以上(R1:42%、R2:56%、R3:60%)、また、令和6年度に読書を年間10冊以上の生徒80%を達成。

2. 将来を見据えた進路を切り拓く力の育成

(1) 進路指導体制の構築

- ア 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた3年間の進路指導計画を策定し、教科・学年・分掌の協働による全教職員が一体となって取り組む進路指導体制を構築する。
- イ 大学や企業など外部の様々な職業人を講師として招聘し、または、訪問して学ぶ機会を安定して供給できる体制を整える。

(2) 探究的学習の推進

- ア 「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に則り、SDGs 探究活動や進路探究学習に読書活動を積極的に取り入れ、インターネットによる情報のみに頼らない、確かなエビデンスに基づく探究的学習を実践する。キャリアパスポート等に反映し、自らの進路を切り拓く力を育成する。
 - イ 「総合的な探究の時間」や「花園進路探究プログラム」等で自発的に学び探究する能力を引き出し、全生徒が探究活動を通じて成長した実感が持てるよう指導する。
 - ウ SDGsに係る探究活動において、当事者に共感し、真に当事者意識を持って課題解決する能力を養い、未来を創造する力を育成する。
- ※生徒自己診断において、令和6年度に「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%以上(R2:85%、R3:90%)、「探究的な学習を積極的に取り組む」80%以上(R2:68%、R3:76%)、「自分の進路についてしっかりと考えている」84%以上(R1:77%、R2:75%、R3:82%)、また、国公立大学及び難関私立大学合格者250名以上(R1:95、R2:196、R3:316)、学校斡旋就職内定率100%を達成する。

3. 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成

(1) 自己とあらゆる他者の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成

- ア 互いに理解し繋がる力を育成し、誰もが自分の居場所がある集団育成に取り組む。
- イ 関係教科と連携し、組織的・継続的な指導を行い、情報リテラシーを育成する。

(2) 社会性の育成

- ア TPOに応じ、責任感を持って行動できる生徒を育成する。
- イ 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔で快適な学習環境を保つ。

(3) 自主的な活動への参画

- ア 生徒会活動やボランティア活動に協調性を持って積極的に取り組む生徒を育成する。
- イ 部活動に所属し、目標を持って継続して取り組む生徒を育成する。

※生徒自己診断において、令和6年度に「本校で人権を尊重することについて学べている」90%以上を維持(R1:89%、R2:89%、R3:90%)、「HR教室は居場所として快適である」88%以上を維持(R1:88%、R2:88%、R3:89%)、「本校で友好的な人間関係を築けている」92%以上を維持(R1:95%、R2:93%、R3:94%)、「本校の校則や決まりをよく守っている」92%以上を維持(R1:95%、R2:92%、R3:94%)、「教室や廊下などは清掃がいきどき授業をするのにふさわしい環境である」70%以上(R2:65%、R3:69%)、「HR活動や生徒会行事に積極的に参加」85%以上(R1:83%、R2:83%、R3:84%)、「部活動が活発」90%以上を維持(R1:91%、R2:92%、R3:94%)を達成。

4. 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成

(1) 多文化理解教育の一層の充実

- ア 留学生や姉妹校との交流(WEBを含む)や多文化理解に係る体験的学習を推進し、多文化共生について深く考え、課題の解決に協働して向かう姿勢を養う。
- イ 英語や第二外国語(韓国朝鮮語・中国語・フランス語)の授業等を通して、異国の文化や伝統等を学び理解し尊重する態度を養う。

(2) 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育の充実(国際文化科・普通科)

- ア ICTを活用し、4技能を総合的に伸ばす指導方法を開発するとともに、ネイティブ英語教員を最大限にいかした英語教育を実践する。
 - イ スピーチコンテストやインターナショナル・フェスティバル等で発表する機会を積極的に取り入れる。
 - ウ GTEC4技能のCEFR-JのA2.2以上をめざさせるとともに、第二外国語の語学検定試験、英検準1級等資格取得に挑戦させる。
 - エ 国際理解教育を推進し、生徒の視野を広げ、海外語学研修や留学に挑戦させる。
- ※生徒自己診断において、令和6年度までに「国際交流・国際理解教育が充実」95%以上(R1:94%、R2:91%、R3:87%)を達成する。

※令和6年度までに、国際文化科2年次CEFR-JスコアB1.1以上8%、A2.2以上60%を達成する。

5. 学校力の向上

(1)業務の効率化と生産性を向上させる仕組みづくり及び働き方改革の推進

ア 教科・学年・分掌の持続可能な協働体制を確立し、すべての教職員が主体的に学校経営に参画する意欲を持つ教職員集団を組織する。

イ 人権教育や防災教育の推進、授業改革やオンライン学習支援の充実、生徒指導や進路指導のスキル向上など教職員の資質向上に寄与する研修を効果的に実施する。

ウ ICT ソリューションを活用した会議運営及び情報共有の効率化を図り、働き方改革を推進する。

(2)広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進

ア 学校説明会等における「花園 PRESS」活動や WEB ページの充実、及び、地域・中高・高大の連携を推進する。

※教職員自己診断において、令和6年度に「会議が有効に機能」70%以上(R1:59%、R2:67%、R3:51%)、「各組織の連携」55%以上(R1:47%:R2:48%:R3:40%)、「校内研修は役立つ」75%以上(R1:55%、R2:74%、R3:58%)、「中学生への情報発信」90%以上(R1:88%、R2:91%、R3:87%)、「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」90%以上(R1:88%、R2:91%、R3:84%)、保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」90%以上(R2:89%、R3:79%)を達成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校生活をより充実したものとするため、生徒、保護者の皆様と教職員に対して、学校教育活動や取組みに関するアンケート「学校教育自己診断」を12月中旬に実施。(保護者回答率 86.9%)。</p> <p>【学校満足度】生徒、保護者ともに「本校に入学してよかった」は8年連続90%超と高い水準を維持し、さらに今年度は生徒94%(R3:92%)、保護者95%(R3:91%)と、昨年度より上昇した。「学校に行くのが楽しい」も生徒87%(R3:87%)、保護者90%(R3:88%)とも高い満足度が得られている。また、「国際交流や国際理解教育が充実している特色がある」はコロナ禍の影響で実施できなかった取組みもあったが、夏期カナダ語学研修(20名)、国際文化科オーストラリア研修旅行(2年次国際文化科全員)を3年振りに実施することができ、生徒91%(R3:87%)、保護者89%(R3:80%)と高い評価が得られた。一方、「施設・設備の整備」は生徒77%(R3:76%)、保護者58%(56%)と伸びが小さい。生徒の安全・安心できる学びを保障するために校舎等の老朽化に伴う種々の改修工事を迅速かつ適正に進めているところである。また、今年度はエレベータ新設、食堂空調設備設置、リーディング GIGA ハイスクール事業による普通教室と社会科教室に電子黒板機能搭載プロジェクターを整備するなど施設整備や学習環境改善に努めたが、今後も継続して取り組みたい。</p> <p>【学習・進路指導等】生徒の「興味・関心・適性・進路などに応じた科目が選択できる」は、88%(R3:88%)と高い水準を維持し、教職員も86%(R2:64%、R3:73%)と2年間で22ポイント上昇した。選択科目の決定時期に余裕を持たせた結果、十分なガイダンスと指導が定着したと分析する。「態度良く授業に集中」は生徒87%(R3:84%)に対して、教職員82%(R3:78%)とまだ差はあるものの、この3年間で22ポイントと大幅に上昇しており、教職員から見た生徒の授業態度に対する評価が顕著に良くなっている。また、今年度1年次から「指導と評価の一体化」に向けた「観点別学習状況の評価」を実施しているが、生徒の「各教科の成績・評価は適切であり納得できる」は1年次93%(R3:93%)と高評価を維持、全体でも93%(R3:92%)と新たな評価法への移行を円滑に実施でき、学習指導面での信頼関係が構築できていると評価する。一方、「家庭学習の習慣がついている」の肯定的回答は、生徒59%(R3:60%)、保護者50%(R3:54%)と下降傾向が認められた。全講座について学習支援クラウドサービスを活用できる環境を整え、多くの教員が学習課題配信・回収を実施しているが、3年次を除く平日の自宅学習時間が1時間に満たない生徒は、1年次80.4%、2年次69.1%と極めて多く、大きな課題となっている。1人1台端末の活用を推進し、教育産業や本校教員による授業等の配信動画の視聴、学習支援クラウドサービスを活用した予復習等よりきめ細やかな学習支援体制を整え、教科や学年等の組織的な学習習慣の定着に向けた取組みを確立させることが急務である。</p> <p>生徒の「ICT 機器が授業等で活用されている」は、95%(R3:91%)、「教え方に工夫をしている先生が多く、授業はわかりやすい」は、84%(R3:77%)と上昇した。次年度はリーディング GIGA ハイスクールアドバンス校として電子黒板機能搭載プロジェクターを大いに活用し、さらなる授業改革をめざす。生徒の「自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくある」は、85%(R2:75%、R3:78%)と2年間で10ポイント上昇し、コロナ禍が続く中であるが制限を緩和し機会を多くした効果が認められる。また、「探究的な学習を積極的に取り組む」も80%(R2:68%、R3:76%)と12ポイント上昇、思考力、判断力や表現力を育成する教科教育の取組みにより、主体的な学習に対する自己評価が高まったと言える。「将来の進路や生き方について考える機会がある」91%(R3:90%)、「授業や補習で自分の進路に必要な 学力を得ることができる」88%(R3:88%)、「進路指導はきめ細かい」85%(R3:85%)と高水準を維持している。このように生徒の学習や進路指導に係る意識はほぼ全ての項目で高い肯定的回答率を維持している。また、保護者については、「学力向上をめざした教育活動に取り組む」84%(R3:81%)、「進路に関する情報提供ときめ細やかな指導」74%(R3:72%)、「保護者に対する進路説明会や懇談会が積極的」77%(R3:71%)と、今年度はV字回復した。進路選択等に係る必要な情報は、学年通信やホームページ等でこまめな情報提供に努めているが、今年度はコロナ禍による制限を緩和し、1年を通して保護者が来校する機会を復活させたことが結果に表れている。引き続き、保護者とのきめ細やかな連携を進め、保護者からも信頼できる学校づくりに努めたい。</p> <p>【生徒指導等】生徒の「クラスは居場所として快適」91%(R3:89%)、「本校で良好な人間関係を築けている」93%(R3:94%)、「人権を尊重することについて学べている」92%(R3:90%)、「先生はいじめについて真剣に対応してくれる」89%(R3:84%)と、互いの違いを認め合い、生徒一人ひとりを大切にできる教育が定着し、すべての項目において高い水準の肯定的回答を得ている。また、保護者については、「いじめについて真剣に対応」81%(R3:76%)、「一人ひとりの人権を尊重する姿勢で指導」83%(R3:79%)、「生命を大切にできる心や社会のルールを守る態度を養う」82%(R3:79%)と「学習・進路指導等」と同様いずれもV字回復した。「生徒指導の方針に共感・納得」は、生徒61%(R3:57%)、保護者80%(R3:76%)とも上昇した。特に1年生は71%と他学年より15ポイント以上高い。標準着用時にスカート丈を短くすることについて許容してほしいという生徒の要望は依然として根強く、また、頭髪等の指導は個別に実施するため、改善の期日が生徒によって異なり、同じ基準で実施していることが見えにくく、指導に対する不平等感を持つ場合があるが、TPO に応じた指導は適切であると、理解が浸透してきたと言える。保護者の「生徒や保護者の気持ちをよく理解し、適切な生徒指導を行っている」は83%(R3:78%)、「学校の規則やきまりをよく守っている」は生徒94%(R3:94%)、保護者92%(R3:90%)と上昇、指導に一定の支持を得て協力的であると言えることから、生徒の主体態度を育みつつ、方針を変えることなく指導を継続したい。生徒の「担任以外に気軽に相談できる先生やスクールカウンセラーがいる」は、69%(R3:59%)と10ポイント上昇、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置していることに加え、今年度は、保健室、進路資料室、図書学習情報センター、さらには職員室前や渡り廊下の相談コーナー等で、生徒と教員が話す光景を多く目にするようになった。また、教育相談体制の整備を進め、組織的なセーフティネットワークの構築に努めてきた成果も現れたと分析する。(参考)教職員の「教育相談体制が整備され、担任以外と相談することができる」92%(R3:87%)。</p> <p>【行事・部活動・コミュニケーション】「生徒会行事に積極的に参加」は生徒88%(R3:84%)、保護者96%(R3:89%)と大幅に上昇、3年振りに体育祭を保護者の入場制限をなくしフルメニューで実施、文化祭も保護者や中学生の入場を無制限にして土日開催したことが肯定的回答に繋がったと言える。「部活動が活発」は生徒94%(R3:94%)、保護者87%(R3:81%)と、高い肯定感を得られた。「中学生に必要な情報を十分行っている」は、生徒86%(R3:87%)、保護者83%(R3:76%)、教職員96%(R3:87%)と、コロナ禍の中でも高い肯定的回答が得られた。校内外での学校説明会の実施に加</p>	<p>【第1回(R4/6/21)】</p> <p>OR4年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3年度学校教育自己診断では、生徒や保護者の評価は概ね高い水準を維持しているが、評価が下がった項目について、「いつ・どのような取組みを・だれが」行うのか、具体的な計画が必要。成果指標の数値目標が丁寧に記されているので期待したい。また、教職員の体制や連携に係る項目の自己評価が低いのが大きな課題とみられるが、どのような対策を企んでいるのか。総務部を立ち上げ、新たな組織・体制での取組みに期待する。 ○スクール・ミッションについて <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の策定に際し、行内組織の立ち上げが必要と考える。学校としてめざす目標を考える良い機会だと思う。素案を提示していただき意見を聴取していただければと思う。 ○進路指導について <ul style="list-style-type: none"> ・進路状況はこの2年間で飛躍的に伸びているが、今後どのような方針でどのような卒業生を輩出していくのか、そのための適切なカリキュラムは何かを考え、生徒が真にやりたいことができるように育成してもらいたい。大学でも目標がなく入学する学生は続かず、中途退学する傾向がある。先生方の粘り強い指導の成果が現れていると感じるが、今後も継続して粘り強く指導してほしい。 ○1人1台端末の活用について <ul style="list-style-type: none"> ・SEの配置が必要だが、難しいと思うので大変だろうが環境整備を進めてほしい。 ○学校行事等について <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化科オーストラリア研修旅行やカナダへの夏期語学研修を再開することは素晴らしい。このような挑戦を果敢に進めてほしい。 <p>【第2回(R4/10/28)】</p> <p>○授業見学を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面とオンラインのハイブリッド型の授業が展開されていて良いと感じた。コンセンの増設など整備もされているのが良い。 ・情報の授業でwebページの制作をしていた。このような実用的な内容が行われていることに驚いたが、今後必要性はより高まるだろうが期待したい。 ・グローバル化が進む中、オールイングリッシュの授業はとても意味があると感じた。推進してもらいたい。 ・プロジェクターによる投影は巻き上げ式のスクリーンを使っているようでは時代遅れ。電子黒板対応型の導入をぜひ行ってもらいたい。 ・今日は少し緊張感が足りないと感じる授業が散見された。子どもたちの心に刻まれるような授業実践をしてほしい。 <p>○スクール・ミッション(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全会一致で承認。具現化に向けた経営計画の策定を進めてもらいたい。 <p>○進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生について、進路が決定した生徒とこれからの生徒に分かれるが、授業へのモチベーションが落ちないように工夫してもらいたい。 <p>【第3回(R5/2/17)】</p> <p>○令和4年度第2回授業アンケート結果及び令和4年度学校教育自己診断結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣づけの項目について、最近、塾、自習室、図書館、喫茶店などで勉強している生徒が

府立花園高等学校

<p>え、ホームページや公式ブログでの情報公開に努めてきたことが結果に反映されていると思われる。保護者の「担任や教職員の対応は保護者に対して誠実である」は 90%(R3:85%)と上昇、高い肯定的回答を得ることができた。引き続き、様々な事案に対して迅速かつ適切な対応が組織的にできるよう努める。</p> <p>【学校運営等】教職員の「分掌・教科の会議は有効に機能」は 66%(R3:51%)、「各種委員会の取組みが有効に機能」は 68%(R3:49%)、「学年、分掌、教科等が連携し取組みが有効に機能」は 58%(R3:40%)とすべて昨年度を大きく上回った。また、生徒の「先生はお互いに協力している」は 90%(R3:86%)と高い肯定的回答を得ている。昨年度は、度重なる新型コロナ感染に係る臨時休業の対応や行事予定の変更、教科指導計画の修正等に加え、観点別学習状況の評価の導入に向けた準備や1人1台端末の配備及び活用の推進等、新たな業務や課題が山積し、分掌・学年・教科等の組織内外の情報共有や相互連携に努める余裕がなく、結果として相互連携が希薄な「ぶつ切り」状態で業務遂行するケースが増えた。今年度は、学校運営の円滑な遂行に寄与する分掌としての総務部の設置、各種委員会構成の再編、校時に教科会議を入れる等の改善を図り、職員会議のペーパーレス化など業務の効率化に努めたことが、肯定的回答の増加につながったと考える。引き続き、個々の教職員の生産性向上を図り、スマートでシャープな学校運営体制の構築を果たすよう精力的に取り組む。教職員の「校内研修は教育実践に役立つ」は 70%(R3:58%)とV字回復した。スクールソーシャルワーカー、ICT 関連企業、大学教授による対面研修は喫緊の課題に直結する内容で好評であった。教職員の「いじめ(疑いを含む)が起こった時の体制が整っており、迅速に対応することができている」は 88%(R3:76%)、人権尊重に関する課題や指導方法に学校全体で取り組む」は 86%(R3:82%)と、研修の成果が教育実践に役立ったと分析する。</p>	<p>多い。文言の変更を検討してはどうか。</p> <p>・花園高校に入学してよかったと感じている生徒・保護者がかなり多いことから、学校への満足度はかなり高いことが伺える。</p> <p>○令和4年度学校評価(案)について</p> <p>・今年度の重点目標について、評価基準としている学校教育自己診断の結果は良好。目標値を上回り、学校経営計画は達成されている。全会一致で承認。</p> <p>○令和5年度学校経営計画(案)について</p> <p>・教職員の超過勤務時間を減らすことは、会議のペーパーレス化等、業務量の減少につながっているが、限界がある。人員を増やす等の抜本的な手当がない。一方で、観点別評価の実施や GIGA ハイスクール構想の推進など新たな業務が増えており、現場は困窮するばかりで大変難しい問題である。全会一致で承認</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学び続ける意欲と態度、確かな学力の育成	(1) 授業力向上の取組み	<p>ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業研究・実践を教科内で共有し、教職員が随時閲覧可能なアーカイブ化を行う。</p> <p>イ 「観点別学習状況の評価」の運用を円滑に実践し、分析と課題を全体で共有し、次年度に向けてブラッシュアップする。</p> <p>ウ ICTを活用した効果的で効率の良い授業を開発・実践する。</p> <p>エ 互見・研究授業を活発に行い、生徒の学びを深化させる指導と評価の一体化を進める。</p>	<p>ア・授業アンケート総合 3.35 以上[3.30]</p> <p>・「授業計画」3.40[3.43]、「知識・技能が身についた」3.30[3.31]以上を維持</p> <p>イ・生徒自己診断「成績・評価は適切」90% [92%]以上を維持</p> <p>ウ・生徒自己診断「ICT 機器が活用されている」92%[91%]、「授業はわかりやすい」78%[77%]</p> <p>エ・「主体的、対話的で深い学び」に係る事例研究授業を年1回行う。</p> <p>・生徒自己診断「考えを発表する機会」80%[78%]</p>	<p>ア・授業アンケート総合 3.28、「授業計画」3.38、「知識・技能が身についた」3.28 といずれも目標値に届かなかった(△) 平常の授業を見る限りでは昨年度より視覚化が進み、わかりやすい授業が増えたように感じるが、長引くコロナ禍が生徒の学習意欲にも影響しているのか生徒の取り組む姿勢の低迷も感じ、様々な角度から分析し改善策を検討する必要がある。</p> <p>イ・学期ごとに観点別評価の検証を行い、生徒や保護者に明示しながら適正な評価になるよう成績算出式を修正した。生徒自己診断「成績・評価は適切」93%(○)</p> <p>ウ・生徒自己診断「ICT 機器が活用されている」95%(◎)、「授業はわかりやすい」84%(◎)。自己診断の目標値を上回る結果が授業アンケート結果に反映されていない原因を究明する必要がある。</p> <p>エ 「主体的・対話的で深い学び」に係る各教科公開授業及び研究協議を年1回以上実施した。(○)</p> <p>生徒自己診断「考えを発表する機会」85%(◎)</p>
	(2) 学習到達度の把握と学力伸張の取組み	<p>ア・教科学習到達度分析会を毎月実施し、シラバスに沿った進捗や評価の進捗等の確認・情報共有を行う。</p> <p>イ・持続性のある主体態度を伸張する授業計画を組織的に立て、月ごとにパフォーマンス課題を報告し一覧表を作成する。</p>	<p>ア・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力(2年次2回め)B2以上 30%[21%]、B3以上 70%[60%]</p> <p>イ・生徒自己診断「授業に集中」85%[84%]</p> <p>・生徒自己診断「授業・補習を通じて進路に必要な学力を得ることができる」88% [86%]</p>	<p>ア・教科会議を校時に設定し、毎週話し合う機会を設け、生徒の学習状況に係る情報共有が進んだが、生徒の学力向上を図る組織的な取組みを深められなかった。コロナ禍での工夫を凝らし、自学自習の習慣づけに取り組む。外部機関の客観的学力診断テストにおける学力(2年次2回め)B2以上 20%、B3以上 45%(△)</p> <p>イ・全科目学習支援クラウドサービスで課題の配信・回収を行い、主体的に学び考える機会を増やし、生徒の主体態度を伸張する取組みを行った。生徒自己診断「授業に集中」87%(○)、「授業・補習を通じて進路に必要な学力を得る」88%(○)</p>
	(3) 自学自習の習慣を確立する取組み	<p>ア・学習支援クラウドサービスを活用し予習・復習を毎時の授業に反映させる。</p> <p>イ・朝学や週末課題配信、教育産業の動画配信サービス等を活用し自学自習習慣をつける。</p> <p>ウ・教科と連携して「読書啓発月間」を実施し、月に1冊以上の読書を促す。</p>	<p>ア・授業アンケート「授業内容について必要な予習や復習ができている」3.27[3.26]</p> <p>イ・生徒自己診断「自学自習の習慣がついた」61%[60%]</p> <p>ウ・月平均1冊以上本を読んだ生徒 40%以上</p>	<p>ア・学習支援クラウドサービスは全国で極めて高い視聴時間に達しているとの報告を受けたが、生徒間での偏りがみられる。授業アンケート「予習や復習ができる」3.23(△)</p> <p>イ・朝学は全学年しっかり行うことができた。教員作成の学習動画の中には 1 万回を超える視聴回数ものもあるが、全校的な取組みとしてはこれからである。「自学自習の習慣」59%。3 年生は 70%と高い値であったが、1 年生は 51%と低く、入学当初からの習慣づけが重要である。(△)</p> <p>ウ・図書貸出冊数は昨年度の2倍以上と顕著に増加し利用する生徒が増えた。生徒の読書状況はデジタル図書の利用が多く、月1冊以上読書をした生徒は約 12%に留まった。入学当初から教科との協働による全校的な読書啓発の取組みが必要である。(△)</p>

府立花園高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 将来を見据えた進路を切り拓く力の育成</p>	<p>(1) 進路指導体制の構築</p> <p>(2) 探究的学習の推進</p>	<p>ア・進路指導方針に沿った教科単位の具体的な3年間の指導計画を策定・共有し、各学年「集中学習会」を実施する。</p> <p>イ・関西大学等との高大連携や、企業等との連携事業に着手し、キャリア教育を充実させる。</p> <p>ア・「総合的な探究の時間」を教育産業の動画配信サービスを活用して効率化を図り、「深い学び」を体現する指導体制を確立する。</p> <p>イ・生徒が自発的に探究し、発表する機会を作り相互評価によって高めあう集団を育成する。</p> <p>ウ・SDGsに係る探究活動を通して教科横断的・包括的思考力及び共感力を育成するために大学や地域と連携した体験的学習を積極的に導入する。</p>	<p>ア・国公立大学及び難関私立大学合格者 200名以上</p> <p>イ・生徒自己診断「自分の進路についてしっかりと考えている」83%[82%]</p> <p>ア・生徒自己診断「探究的な学習を積極的に取り組む」78%[76%]</p> <p>イ・生徒自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」90%以上[90%]</p> <p>ウ・「花園進路探究プログラム」を100名参加</p>	<p>ア・進路指導部が中心となって3年間の外部模試活用計画を見直し、より高い学力向上を実現するプランを策定した。今年度も校外公的施設での3年夏期集中勉強会を4日間実施、他学年も校内にて学習会を行った。国公立大学及び難関私立大学合格者 178名と苦戦した。(△)</p> <p>イ・関西大学国際学部との連携事業に参加、9月には3年対象の大学説明会を本校で行った(関関同立、近大、龍谷大、大工大)。10月には1年全員の大学見学会を実施。大学進学への意欲が高まった。1、2年対象の分野別進路説明会も2回ずつ実施したが、さらなる具体的な取り組みが必要である。生徒自己診断「自分の進路についてしっかりと考えている」79%(△)</p> <p>ア・各学年が主体となって生徒のニーズにマッチした学びを実践することができたが、「総探WG」を中心に各学年を統括し進める必要がある。生徒自己診断「探究的な活動を積極的に取り組む」80%(○)</p> <p>イ・授業の中で工夫して発表・相互評価の取り組みを行った。生徒自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」91%(○)</p> <p>ウ・「花園進路探究プログラム」は、SDGsに係る今までにない充実したプログラムを実施することができた。大学教授等を講師として招聘し、タイ北部在住の詩人とオンラインでつながる学習会や、地域で働く外国人を支援する卒業生の講話や交流会、福島大学元特任教授を招聘して避難所運営スキルを養うプログラムの学習など次年度につながる取り組みを行った。しかし、生徒の参加人数を集めることができず、参加者は40名程度であった。(△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 人権が尊重された教育の推進と社会性の育成</p>	<p>(1) 自己とあらゆる他人の人権を尊重し、多様性を認め、高め合う感性の育成</p> <p>(2) 社会性の育成</p> <p>(3) 自主的な活動への参画</p>	<p>ア・誰もが生まれながらにして持っている、人間として幸せに生きていく権利を尊重する心を育み、互いに認め合う集団育成を進めることをクラス目標とする。 ・同和問題について学習し理解を深める。</p> <p>イ・教科と連携した様々な角度から情報リテラシーの学習を実践する。</p> <p>ア・規範意識を持ち、自主自律の精神を育み、基本的な生活習慣を確立するため、生徒会主催の挨拶運動、遅刻防止週間を実施する。</p> <p>イ・日常の清掃活動を生徒保健委員会のテーマとして掲げ、実施計画を立てて実践する。</p> <p>ア・生徒が企画・運営する花高祭を実現する。 ・ボランティア活動等の地域連携を深めるための具体的な作戦を立てる組織を作る。</p> <p>イ・部活動に係る施設・設備等の充実や指導者を拡充し、部活動を頑張る生徒を応援する。</p>	<p>ア・生徒自己診断「人権を尊重することについて学んでいる」90%以上を維持[90%] 「HR教室は居場所として快適である」88%以上を維持[89%] ・3年生において、同和問題に係る人権学習を実施する。</p> <p>イ・生徒自己診断「情報リテラシーについて学んでいる」80%[新規]</p> <p>ア・生徒自己診断「私は本校の校則や決まりをよく守っている」92%維持[94%]</p> <p>イ・生徒自己診断「教室や廊下等は清掃が行き届いている」70%[69%]</p> <p>ア・生徒自己診断「HR活動や生徒会活動に積極的に参加」85%[84%]</p> <p>イ・生徒自己診断「部活動が活発」90%を維持[94%] ・生徒会活動、ボランティア活動、部活動等自主的な活動で活躍する生徒を公式ブログ等で紹介する(年30回以上)。</p>	<p>ア・多文化共生、SNSに係る人権問題など人権を尊重する教育を積極的に行った。生徒自己診断「人権を尊重することについて学んでいる」92%(○)、「HR教室は居場所として快適である」91%(◎)・3年生対象の同和問題に係る講演会は、生徒の感想を読むと心の琴線に触れるとても有意義な学びになったと判断する。(○)</p> <p>イ・情報科の授業や総合的な探究の時間等全学年で実施した。生徒自己診断に「情報リテラシー」の項目を入れることができなかったが、外部講師による講演会やSNSの取り扱いに係る日常的な指導など一定できたと言える。(○)</p> <p>ア・生徒会による朝の挨拶運動及び遅刻防止週間を2回実施し、チャイムを鳴らさず行動できるよう啓発した。生徒自己診断「私は本校の校則や決まりをよく守っている」94%(○)</p> <p>イ・日常の清掃活動の徹底を学校全体で取り組んだ。生徒自己診断「教室や廊下等は清掃が行き届いている」72%(○)</p> <p>ア・コロナ禍が続く中、できる限りを尽くして生徒会主催行事を3年前のスケールに戻して実施した。また、枚岡樟風高校、布施高校の生徒会と会して交流や意見交換会を行う「はひふサミット」を2回実施、地域連携への基盤を作ることができた。生徒自己診断「HR活動や生徒会活動に積極的に参加」89%(◎)</p> <p>イ・ダンス部は2年連続全国大会出場、男子バスケットボール部は公立高校大阪府2位の成績を収めるなど卓越した活躍をする部やマップラム東大阪市国際交流フェスティバルでの出演もあり、活発に行っている。生徒自己診断「部活動が活発」94%(○) ・部活動や花高祭等の行事で活躍する生徒たちを校長ブログで94回掲載した。(◎)</p>

府立花園高等学校

4 豊かな国際感覚と優れた外国語運用能力の育成	(1) 多文化理解教育の一層の充実	<p>ア・従来の在日外国人や留学生との交流に加え、姉妹校等とのWEB交流を推進し、多文化理解に係る体験的学習を充実させる。</p> <p>イ・語学教育を通して、他国の文化や伝統、習慣等について学ぶ機会を充実するために、2年次でポスターセッションを行う。</p>	<p>ア・姉妹校等とのWEB交流10回以上[8回] ・1、2年次での「国際交流行事」各2回。</p> <p>イ・生徒自己診断「国際交流・国際理解教育が充実」90%以上を維持[87%]</p>	<p>ア・コロナ禍のため姉妹校との調整が困難な状況が続いているが、全北外国語高等学校の生徒と文通やプレゼント交換をするなど互いの信頼を築く交流ができた。また、秋には新たにオーストラリア Toowoomba 高校の生徒と教員が来校し、2023年7月に日本語を学ぶ生徒たちの本校への訪問が決まるなど、次年度以降につながる活動ができた。また、フランス語や韓国語のコンテストで西日本1位など優秀な成績を収める等、第二外国語の学習の成果が表出している。海外の生徒等とのWEB交流は7回に留まったが、カナダへの夏期語学研修やオーストラリアへの国際文化研修旅行を実施することができ、充実した多文化理解教育ができた。(○) ・1、2年次での「国際交流行事」2回実施。(○) イ・様々な国の外国人や留学生を招聘して母国の文化や生活等について学び交流する機会を持ち、事前研究のポスター発表を行った。生徒自己診断「国際交流・国際理解教育が充実」91%(○)</p>
	(2) 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育の充実	<p>ア・ICTを活用したCanDoリストに基づく4技能を総合的に伸ばす教育を実践する。 ・教育産業の学習教材を効果的に活用し、高いレベルの英語力を育成する。</p> <p>イ・1年レシテーション及び2年スピーキングコンテストやインターナショナル・フェスティバル等を機会にスピーキングスキルを育成するための講習を充実させる。</p> <p>ウ・外部講師を招聘し英検準1級対策講座を実施、第二外国語検定を積極的に勤める。 ・国際文化科の生徒の英語力到達目標をCEFR-JのA2.2以上として生徒に動機づけを行い、教科指導を実践する。</p>	<p>ア・実力診断テスト英語(10月実施)において学習到達度の人数 1年次 A3以上 8.0%以上を維持[13.7%] B3以上 76%以上を維持[79.4%] 2年次 A3以上 9.0%以上[5.4%] B3以上 70%以上[51.8%]</p> <p>イ・レシテーションやスピーキングコンテスト等で生徒が発表する機会 普通科1回、国際文化科3回 ・インターナショナル・フェスティバルへの参加</p> <p>ウ・国際文化科2年次 CEFR-JのB1.1以上6%、A2.2以上55%を達成する。 ・英検準1級合格者2名以上[4名]</p>	<p>ア・実力診断テスト英語(10月)学習到達度 1年次 A3以上 6.4% B3以上 77.6%(△) 2年次 A3以上 6.9% B3以上 59.5%(△) ICTを効果的に活用し4技能の伸長を図り、2年次は昨年度より学習到達度が向上したが、目標値には達しなかった。次年度は新たに整備されたmoll教室や電子黒板機能を活用した授業改革を進める。</p> <p>イ・3学期に1、2年スピーチキングコンテストを実施。他に授業で発表する機会を少なくとも普通科10回、国際文化科20回実施した。(◎) ・インターナショナル・フェスティバルに代表が参加し、司会も務めた。(○)</p> <p>ウ・国際文化科2年次 CEFR-JのB1.1以上15%、A2.2以上60%を概ね達成。3年次12月では、B1.1以上46%、A2.2以上100%を達成した。(◎) ・外部講師を招聘し英検準1級対策講座を実施。英検1級合格者1名。準1級に数名挑戦したが合格者はなかった。(△)</p>

府立花園高等学校

5 学校力の向上	<p>(1) 業務の効率化と生産性を向上させる仕組みづくり及び働き方改革の推進</p>	<p>ア・「総務部」を新設し、5分掌体制をつくり業務分担を明確にする。 ・教科・学年・分掌の持続可能な協働体制を確立する。</p> <p>イ・人権、防災、ICT、授業改善に係る職員研修を各1回実施する。</p> <p>ウ・ICT ソリューションを活用した会議のスリム化及び情報共有の効率化を実現する。 ・超過勤務の加算時間や除外時間の入力を促し、正確な勤務時間を把握する。</p>	<p>ア・教職員自己診断「学年・分掌・教科等の会議は有効に機能」65%[51%] ・教職員自己診断「各組織の連携」55%[40%]</p> <p>イ・教職員自己診断「研修は役立つ」70%[58%]</p> <p>ウ・タブレットを活用した職員会議へ移行し、毎朝掲示板閲覧の習慣を徹底する。 ・時間外勤務月 80 時間以上の職員をなくす。</p>	<p>ア・本年度新設した総務部が有効に機能し、分掌間連携が円滑になった。また、分掌や委員会等の組織内外の連絡に学習支援クラウドサービスを活用する等、情報の伝達・共有の効率化を果たした。教職員自己診断「学年・分掌・教科等の会議は有効に機能」66%(○)、「各組織の連携」58%(○)</p> <p>イ・同和教育、ICT を活用した授業改善の取組みの職員研修を実施。また、防災に変えて緊急性の高いヤングケアラーの支援に係る職員研修を実施した。教職員自己診断「研修は役立つ」70%(○)</p> <p>ウ・タブレットを活用した職員会議のペーパーレス化を実施できるようになった。また、毎朝の連絡会の内容を学習支援クラウドサービスで直ちに配信、情報共有が確実にした。(○) ・時間外勤務月80 時間以上の職員は最も多い月で 19 名に達した。観点別評価の実施やオンライン学習教材の開発、コロナ禍の中での生徒会行事や海外語学研修の準備などで、学校全体に課された業務量が激増したこと、除外時間の入力がなされていないことに起因する。次年度へ向けて思い切った業務改善を断行する必要がある。(△)</p>
	<p>(2) 広報活動の充実、開かれた学校づくりの推進</p>	<p>ア・「花園 PRESS」活動を充実し、生徒による広報を推進する。 ・本校ホームページ及び公式ブログに、日々の様々な教育活動を掲載・公開し、生徒の様子や教職員等が取り組む様子を、学校内外に発信し、信頼される学校づくりを進める。 ・保護者に対し、メール配信サービスやホームページ等を利用して迅速かつ的確な情報を提供し、情報発信の広報を積極的に行う。 ・アフター・コロナを見通した姉妹校等との実質的な交流プログラムを再構築し、改めて姉妹校提携を締結する。</p>	<p>ア・生徒自己診断「中学生に必要な情報発信を十分行っている」85%以上を維持[87%] ・ホームページまたは公式ブログの更新を合わせて年 300 回以上行う。 ・保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」85%[79%] ・教職員自己診断「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」90%以上[84%] ・姉妹校との訪問交流を計画し、状況を見て実施する。</p>	<p>ア・校内での学校説明会を5回実施。毎回「花園 Press」による誘導・案内と、生徒会による司会進行、行事や部活動等の説明を行い好評であった。生徒自己診断「中学生に必要な情報発信を十分行っている」86%(○) ・校長ブログの更新 334 回(1/31 まで)。ホームページの更新も必要に応じて行い、メール配信サービスも適宜活用するなど情報発信に努めた。(◎) ・保護者自己診断「保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている」は 84%であったがほぼ目標を達成したと言える。(○) ・教職員自己診断「保護者や地域に対して十分な情報を伝えている」は 78%と目標に達しなかった。生徒が参画する地域への働きかけがコロナ禍の影響もあり不十分だった。(△) ・オーストラリア・パースにある姉妹校とは相手校の都合で姉妹校提携が難しくなったが、新たにクイーンズランド州の Toowoomba 高校との連携協定を次年度に締結できる準備を進めることができている。2023年7月に来校予定。また、韓国の姉妹校との対面での交流は、今年度も見送ったが、次年度は実施の方向で進めている。(一)</p>